

パーカッショニスト安江佐和子プロデュース  
～杉山洋一 影響を受けた作曲家とともに～

# il Sole / Y x S Crossing #03

SAWAKO YASUE



Y

S

YOICHI SUGIYAMA



2019年

9月6日(金) 19:00 開演  
(18:15 開場 / 18:30 プレトーク)

9月7日(土) 14:00 開演  
(13:15 開場 / 13:30 プレトーク)

[会場] トーキョーコンサーツ・ラボ  
(新宿区西早稲田 2-3-18)

[料金]

一般=4,000円

学生=3,000円 (当日学生証要提示)

[出演]

パーカッション=安江佐和子

沓名大地・麻生弥絵・彌永和沙

ピアノ=加藤真一郎

リコーダー=濱田芳通

[プログラム]

杉山洋一

**Jeux I, II for Piano and Percussion (2018-19) (新作初演)**

伊左治直

スパイと踊子 for Xilophone and Recorder

アンティキティラ for Percussion solo (2015)

望月 京

QUARK -INTERMEZZI III for Percussion solo (2010)

John Cage

Amores for Piano and Percussion (1943)

※二日間とも同プログラムです。

※演奏順は当日発表いたします。

[予約・お問い合わせ] 東京コンサーツ

Tel: 03-3200-9755

Website: <http://tocon-lab.com/>



il Sole 第3回を迎える。毎回プログラムを考えるにあたり、杉山洋一の頭の中はどうなっているのかと思うほど彼からは作曲家やその作品名やアイデアが湧き出てくる。

影響を受けた作曲家は子供の時から憧れていたり、現在も常に互いに影響しあっている人だったり、ケージ作品は小学5、6年頃から楽譜を探し集め始めたというからさすがだ。今回は同年代の望月京さん、伊左治直さんの作品を再演したいという杉山洋一氏からの提案にはお互いの影響と、尊敬が見える。

第一回から取り上げたかった「Amores」が楽しみであり、さらに第4回(2020年)の予告作品として美術家・原 倫太郎さんの作品が展示されることも期待していただきたい。(安江佐和子)

安江佐和子さんと一緒に作ってきたこのシリーズ、今回3回目のプログラムには、開始当初からの悲願だったケージ「アモーレス」と合わせ、畏友の作家二人望月京さんと伊左治直さんをお招きすることになりました。安江さんからプログラムを組むに当たり、影響を受けた作家や音楽でプログラムを、というリクエストを頂き、このお二人にお手伝いをお願いした次第です。同世代でそれぞれ作風も全く違いますけれどもお二人からはとても影響を受けましたし、音楽家として真摯な人生を歩みつづける姿勢に心から尊敬を抱いてやみません。そして今回のこの素晴らしいプログラムを実現に導いて下さる素晴らしい演奏家のみなさん、リコーダーの濱田芳通さん、ピアノの加藤真一郎さん、打楽器の沓名大地さん、麻生弥絵さん、彌永和沙さんに、心から感謝しています。どれだけ面白いプログラムなのか、是非ご自分の耳で確かめてみてください。(杉山洋一)

## Profile

安江佐和子 (ソーパーカッション、マリンバ、ティンパニ奏者)



©Kiyosuke Iritune

桐朋学園大学卒業、研究科修了。'95よりサイトウ・キネン・オーケストラのメンバーとして活動。小澤征爾指揮、ヨーロッパ、アメリカツアーにてティンパニ奏者として出演。'02文化庁芸術家海外研修員としてベルリンへ留学。ベルリンフィルティンパニ奏者ライナー・ゼーガースに師事。'04~'07.東京フィルハーモニー交響楽団打楽器奏者。'04久石譲全国ツアーにてソーパーカッションとして参加。'11.4月より安江佐和子プロデュース「Prana」をスタート。自身のプロデュースとして構成、演出、パフォーマンス共に高い評価を受ける。ラ・フォル・ジュルネにてマルタ・アルゲリッチ、ギドン・クレーメル氏と室内楽共演。現在、桐朋学園大学、東京藝術大学非常勤講師。ソロ、アンサンブル、オーケストラと活動は幅広く、プロデュース、レコーディングも多数手掛ける。リズムを超えた「音楽」を求め、歌う、色彩のパーカッションとして、独自の音色感をもった世界を展開する。

Official Website <http://www.sawakoyasue.com/>

杉山洋一 (作曲家)



©山之上雅信

1969年東京生まれ。作曲を三善晃、フランコ・ドナトニ、サンドロ・ゴルリに、指揮をエミリオ・ポマリコ、岡部守弘の各氏に師事。指揮・作曲ともに日欧で活躍。ミラノムジカ、ヴェネチアビエンナーレ、ミュージックフロムジャパンなどより作品を委嘱。阪神淡路大震災のための「灰(1995)」、イラク戦争に抗議する「国境の向こうで(2003)」、スペイン内戦で獄死したミゲル・エルナンデスの詩による「たまねぎの子守歌(2006)」、サハラ砂漠植林計画のための「ツリーネーション(2008)」、絶滅した琵琶湖の昆虫「カフムラナベブタムシ(2008)」など、社会問題を取り上げた作品が多い。東日本大震災復興のための「アフリカからの最後のインタビュー(2013)」では、アバチャ政権に処刑されたケン・サロ=ウィワが、ガザ侵攻で殺害されたパレスチナの妊婦から生まれた赤ん坊のための「かなしみにくれる女のように、による断片、変奏、再構築(2014)」では、パシショワの引用とパレスチナ・イスラエル国歌が、ニューヨーク市警察エリック・ガーナー窒息死事件のための「禁じられた煙、湾岸通りバラード(2015)」では、黒人霊歌と合衆国国歌が、作品の核となっている。2017年第2回一柳慧コンテンポラリー賞受賞。



沓名大地  
(東京藝術大学大学院打楽器専攻3年)

麻生弥絵  
(東京藝術大学大学院打楽器専攻1年)

彌永和沙  
(東京藝術大学大学院打楽器専攻1年)

加藤真一郎 (ピアニスト)



©Marco Borggreve

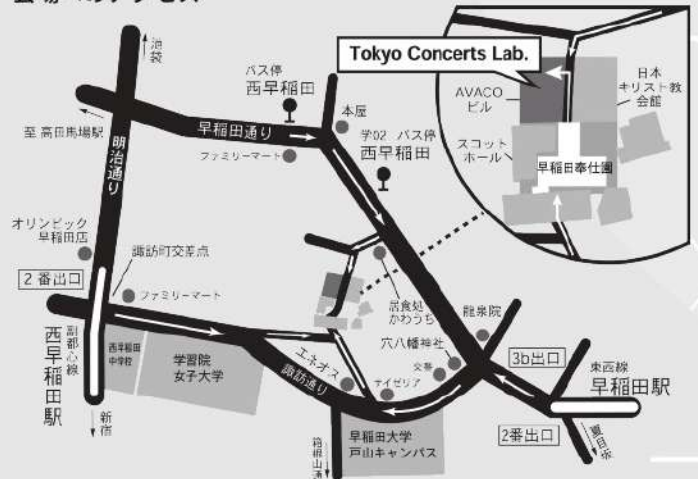
桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了(作曲専攻)。ロストック音楽大学、ミュンヘン音楽大学ピアノデュオ科修了。瀬尾久仁とのピアノデュオで多数の受賞。2003年芥川作曲賞ノミネート。現在、国立音楽大学、桐朋学園大学、東京芸術大学非常勤講師。

濱田芳通 (リコーダー)



我が国初の私立音楽大学、東洋音楽大学(現東京音楽大学)の創立者を曾祖父に持ち、音楽一家の四代目として東京に生まれる。桐朋学園大学古楽器科卒業後、スイス政府給費留学生としてパーゼル・スコラ・カントールムに留学。古楽アンサンブル《アントネッロ》主宰。

## 会場へのアクセス



電車：東京メトロ東西線「早稲田駅」下車徒歩6分(2・3b出口)

東京メトロ副都心線「西早稲田駅」下車徒歩10分(2出口)

電車&バス：JR山手線・西武新宿線「高田馬場駅」下車(早稲田口BIGBOX側)～都バス「西早稲田」下車(「早大正門」行き2つ目)徒歩2分